

「市民の足」になれるか！?

10月8日、瀋陽に地下鉄1号線が開通しました。地下鉄1号線（東西線）は、営業距離27.9キロ、駅数22駅を50分で結びます。始発は6時、終電は19時です。乗車運賃は、1～8駅2元、9～12駅3元、13駅以上4元です。2013年には、2号線（南北線）が開通する予定で、2020年までに、地下鉄は10号線（総営業距離210キロ）まで拡充される予定です。瀋陽の「市民の足」として期待されていますが、運行時間などの問題点もあり、真価が問われるのは、これからです。

	瀋陽東西線	札幌東西線
開通	2010年10月	1976年6月10日 (琴似～白石)
営業距離	27.9キロ	20.1 km
駅数	22か所	19
始発（終電）	6:00 (19:00)	6:00 (00:33)
運行	10分間隔	時間帯によって間隔が変わる(約4～10分)
最低料金	2元 (26円)	200円(16元)



瀋陽地下鉄ホーム写真

正司 毅

「焼き鳥 Якиторй」

ここ数年の和食ブームで「スシ」「刺身」などの生魚料理も好まれ、当地にある日本食レストランはいつも満杯の状況となっておりますが、多くのロシア人は基本的に肉料理が大好きです。天気の良い日に夏はもちろん冬でも郊外で家族や友人とシャシリク（肉の串焼き）料理をして楽しむのがロシア人の余暇の過ごし方のひとつとなっております。その肉料理大好きな「サハリン人」が最近では「焼き鳥」に夢中になっています。

北海道や日本を訪れる機会が多い「サハリン人」が飲食店で食した「焼き鳥」のおいしさが忘れられず、最近ではスーパーやバザール（市場）で「竹串」や日本製の「タレ」を購入し自宅で作る人もいます。この「タレ」ですが値段は日本の約3倍で売られていますが、たっぷりかけて食べることを当地の人々は好みます。

そして最近映画館前にオープンしたのがこの焼き鳥屋です。「塩」はなく「タレ」のみのメニューで、特に休日は若者中心に繁盛していました。

そしてこの垂れ幕にあるもう一方の「たこ焼き」は・・・

残念ながらたこ焼き用の鉄板がないことから、まさしく「看板に偽りあり」状態となっております。



對馬 雅弘

『耐え難くなってきた北京の渋滞』

「いや～渋滞がひどくて遅れてしまいました」。北京において、この言葉は最近挨拶代わりとなっております。現在平日においては、ナンバープレート規制を実施し、例えば「月曜は末尾1と6の車は運転してはいけません」という様に定め、渋滞を緩和しようとしています。が、それも遂に追いつかなくなってきました。最近では1日約1900台というペースで新車登録されているとの事です。北京の人口は1400万人程度とされていますが、自動車の登録台数は450万台を突破。こうなると朝・夕方の通勤退勤ラッシュは当然の事、それ以外の時間帯いつでも渋滞しています。雨の日、週末は車に乗らない方が賢明です。近いうちに偶数・奇数で規制されるのではないかと、という憶測も飛び交い始めています。それでも「今の中国なら、末尾偶数と奇数それぞれ車を買うんじゃない？」という冗談も出るくらい車は売れ続けています。渋滞を緩和する為にどうするか、政府の次の一手に注目です。



中島 康成